

⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
四 き と い ふ	冬 ハ 左 さ 武 む 之 し 己 こ 礼 れ 遠 を	く 久 秋 は 盤 春 す 之 く 久	た 太 た 多 か 加 に 仁 夏 は 波 安 あ 川 つ	一 年 の 乃 う 宇 ち 知 春 は 者 阿 あ	春 夏 秋 冬	第十課

(本文の右の行の漢字は、本文のひらがな・変体仮名の元の漢字です)

ここでは「は」として「者」「波」「盤」の3種類、「あ」として「阿」「安」の2種類、「た」として「太」「多」の2種類の字体が登場しています。大半のひらがなには、このように一音節に対して複数の字体がありました。それが、「あ」から「ん」まで、しかも、くずれて字形が変わっていきますので、すべての字体と字形をおぼえようとすると大変です(さらに、手書きの場合は書き癖があったり、時には書き間違いもあつたりします)。

ただ、“一音節に対して複数の字体がある”といっても、字体の数が多い文字もあれば、字体の数が少ない文字もあります。そして、「は」の場合は「者」というように複数の字体の中で使用頻度の高い字体があります。ですから、まずは使用頻度の高い字体からおぼえていきましょう。それから少しずつ別の字体もおぼえていって、読める文字を増やしていきましょう。

また、筆の入りや筆の流れも重要です。どこから筆が入っているか、どのように筆が流れているか、なぞって考えてみましょう。たとえば「者」の筆の入りは横から、「盤」の筆の入りは縦からで、元の漢字の一画目と同じです。

それでも、「つ」として使用頻度の高い「川」や「へ」として使用頻度の高い「部」など、一部の字体は元の漢字からかけ離れていますので、文字だけを見ても、なかなかあてはまる字体が思い浮かばないかもしれません。このような特徴的な字体は、形からおぼえていきましょう。